

# 感染症発生動向調査委員会報告 10月

## 《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- RSウイルス感染症の報告が多くなっています。

### 全数把握疾患

10月期に報告された全数把握疾患

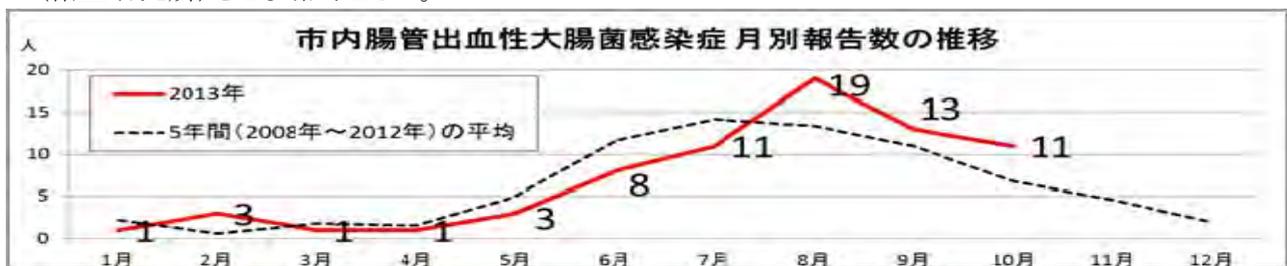
細菌性赤痢	1件	アメーバ赤痢	1件
腸管出血性大腸菌感染症	11件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
腸チフス	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
A型肝炎	1件	梅毒	2件
デング熱	2件	風しん	6件
レジオネラ症	2件		

#### ＜細菌性赤痢＞

Shigella flexneri (B群)の報告が1件ありました。渡航先(バングラデシュ・インド・ネパール・パキスタン)での感染が推定されています。

#### ＜腸管出血性大腸菌感染症＞

11件(O157 VT2 5件、O103 VT1 3件、O157 VT1 1件、O26 VT1 1件、O121 VT2 1件)の報告がありました。このうち4件は食中毒発生施設を利用していました。また、2件は同居家族内で感染者が確認されましたが、感染原因は調査中です。今年は8月、9月、10月で過去5年間の平均よりも報告数が有意( $p<0.05$ )に上回っています。本症は例年これからの季節は減少傾向が見られますが、報告数が多く推移しているため今後も注意が必要です。主な感染経路は①菌に汚染された飲食物を摂取する、②患者の糞便で汚染されたものを口にする、であり、野菜などの食品を良く洗い、肉など食品の中心部まで加熱(75℃で1分間以上)することが重要です。焼肉の生肉を取る箸と食べる箸を区別する等の予防対策も大切です。2次感染防止には、しっかりした手洗いを行いましょう。症状が出た際には、自分の判断で下痢止めを飲まないで、早めの医療機関への受診を心掛けてください。詳しくは、「[O157に注意しましょう](#)」(衛生研究所)をご参照ください。



＜腸チフス＞ 1件の報告がありました。国内での経口感染が推定されています。最近海外渡航歴の無い国内発生例が増えている([IDWR39号](#))ので注意が必要です。

＜A型肝炎＞ 1件の報告がありました。国内での異性間性的接触による感染が推定されています。

＜デング熱＞ 2件の報告がありました。どちらも渡航先(インドネシア、フィリピン)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。

＜レジオネラ症＞ 肺炎型2件の報告がありました。どちらも感染経路等不明でした。

＜アメーバ赤痢＞ 腸管アメーバ症1件の報告があり、タイでの経口感染が推定されています。

＜侵襲性インフルエンザ菌感染症＞ 70歳代男性1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。肺炎で、血液よりインフルエンザ菌が検出されています。血清型は型別不能型でした。感染経路は不明です。なお、インフルエンザ菌では、莢膜があるものについてはa～f型までの6種類に分類されていますが、莢膜がないものは分類不能(nontypeable)型とされています。分類不能型は、重症の感染症を起こすこともありますが、莢膜があるインフルエンザ菌に比べると概して重症とはなりにくいと言われています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞ 70歳代男性(ワクチン接種歴無し)の報告がありました。症状は発熱、咳、全

身倦怠感です。血清型は型別不能型でした。

<梅毒>2件の早期顕症 I 期の報告がありました。1件は硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹の症状で国内の性的接触による感染、もう1件は初期硬結の症状で国内の異性間性的接触による感染が推定されています。

<風しん>6件の報告(すべて男性)がありました。4件では予防接種歴は確認できませんでしたが、1件は予防接種歴2回有り、残るもう1件は予防接種歴1回有り(どちらも発疹、発熱、リンパ節腫脹の臨床症状からの臨床診断)でした。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

#### ◆横浜市の風しん予防接種助成の詳細(保健所)

##### 定点把握疾患

平成25年9月23日から平成25年10月27日まで(平成25年第39週から平成25年第43週まで。ただし、性感染症については平成25年9月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

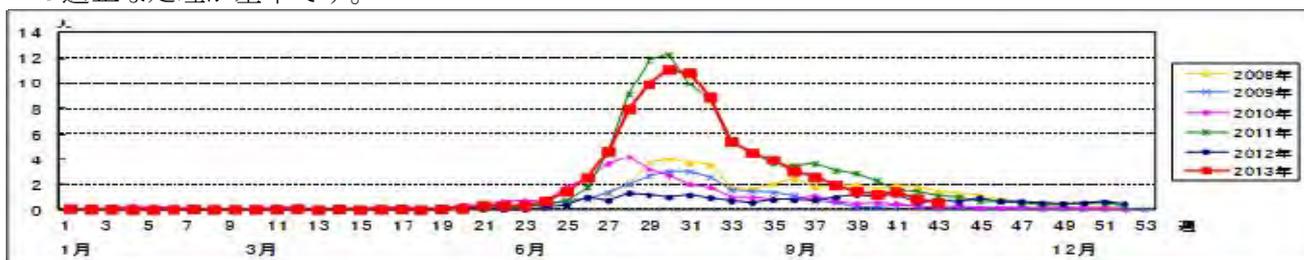
#### 平成25年 週一月日対照表

第39週	9月23日～9月29日
第40週	9月30日～10月6日
第41週	10月7日～10月13日
第42週	10月14日～10月20日
第43週	10月21日～10月27日

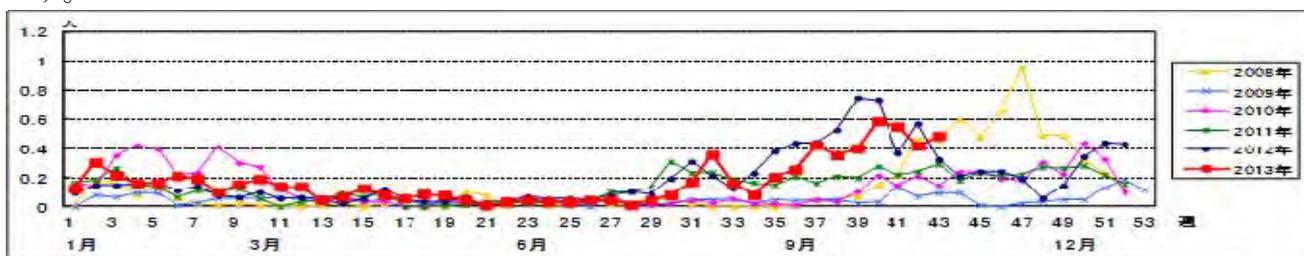
### 1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<手足口病>第43週は市全体で定点あたり0.60と流行は落ち着いていますが、唯一神奈川区で2.00と、警報レベル終息基準値(2.00)を下回っていません。流行は終息に向かっていますが、この夏の流行の主な原因ウイルスであるCA6は、罹患1～2か月後の爪甲脱落症が報告されているので注意が必要です。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。



<RSウイルス感染症>市全体で第43週0.49と増加傾向です。最近気温の変動が激しく、寒い季節に流行する疾患でもあり、今後の注意が必要です。平成24年の人口動態統計によると、わが国のRSウイルス感染症による死亡数は、2008～2012年の5年間で、年平均31.4人(28～36人)と報告([IDWR36号](#))されており、米国では年間400例ほどの小児がRSウイルス感染症により死亡していることが推察されています。



<性感染症>9月は、性器クラミジア感染症は男性が35件、女性が17件でした。性器ヘルペス感染症は男性が2件、女性が7件です。尖圭コンジローマは男性8件、女性が0件でした。淋菌感染症は男性が18件、女性が2件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第39週0.25、第40週0.67、第41週0.00、第42週0.50、第43週0.00と横ばい傾向です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。第42週から感染性胃腸炎(ロタウイルス)が新たに報告対象疾患に加わりましたが、報告はありませんでした。

<基幹定点月報>9月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件、薬剤耐性緑膿菌感染症2件、薬剤耐性アシネトバクター感染症1件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

10月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点53件(鼻咽頭ぬぐい液51件、ふん便2件)、内科定点3件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点3件(眼脂)、基幹定点8件(鼻咽頭ぬぐい液5件、ふん便1件、髄液2件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は咽頭炎25人、気管支炎16人、耳下腺炎6人、胃腸炎2人、インフルエンザ、手足口病、ヘルパンギーナ、結膜炎各1人、内科定点はインフルエンザ3人、眼科定点は流行性角膜炎3人、基幹定点は無菌性髄膜炎2人、川崎病、肺炎、手足口病、クルーズ症候群、発疹症各1人でした。

11月8日現在、小児科定点の咽頭炎患者6人からアデノウイルス1型(1人)と3型(2人)、コクサッキーウイルス(以下Cox)B1型、CoxB2型、CoxB3型(各1人)、ヘルパンギーナ患者1人からCoxB1型、手足口病患者1人からエンテロウイルス71型、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルス(以下Inf)B型、気管支炎患者1人からパラインフルエンザ2型、内科定点のインフルエンザ患者3人からInfAH3型、眼科定点の流行性角膜炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)、基幹定点の無菌性髄膜炎患者1人からCoxB3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の気管支炎患者6人と咽頭炎患者2人からRSウイルス、気管支炎患者5人と咽頭炎患者3人からライノウイルス、咽頭炎患者5人からパラインフルエンザ(3人)、CoxA2型(1人)とCoxA6型(1人)、基幹定点の手足口病患者1人からCoxA6型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

10月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科から1件、基幹定点から6件、定点以外の医療機関等からは13件あり、赤痢菌(*S.flexneri* 4)1件、腸管出血性大腸菌11件、チフス菌1件が検出されました。

その他の感染症は小児科から2件、基幹定点から4件、その他が8件でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(10月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	10月			2013年1月～10月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌			1		2	3
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌			11		1	58
腸管毒素原性大腸菌					2	
チフス菌			1		4	2
パラチフスA菌						2
サルモネラ				1	20	
不検出	1	6	0	4	52	12

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	10月			2013年1月～10月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌 T1				1	1	
T2				5		
T4	1			10		
T6				7		
T12				4		
T25				2		
T28				3		
T B3264				3		
B群溶血性レンサ球菌				1		
G群溶血性レンサ球菌						2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					10	
バンコマイシン耐性腸球菌					2	21
<i>Legionella pneumophila</i>						3
インフルエンザ菌			1	1		4
肺炎球菌			1	5	3	22
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌		1		2	5	1
結核菌						10
緑膿菌						63
百日咳		2	1		2	1
その他		1	2		3	4
不検出	1	0	3	11	0	13

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】